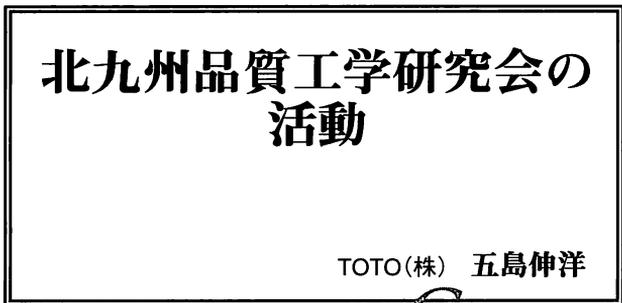


グループ活動紹介



1. 北九州品質工学研究会

北九州品質工学研究会は九州・西中国地区の計装技術の向上をめざす産学官の個人、団体が構成する「計装研究会」の中の「品質工学専門部会」を母体に活動している研究会である。(図1参照)

「計装研究会」は1956年に設立され、北九州工業地帯が四大工業地帯と呼ばれた時代に当時の八幡製鐵所(株)・三菱化成(株)・住友金属工業(株)・安川電機(株)・九州電力(株)等の装置産業の設備部門の技術者が集まり、情報技術の研究・先端技術の研究・環境技術の研究等の勉強会や情報交換を通じて数々の成果を上げると共に、産学官の技術者・研究者の交流の場としての役割も果たしている団体である。

現在は、計装研究会としての活動に加えて、計測・保全・制御・品質工学・情報の5専門部会を設置し、各部会毎の活動を行っている。

「北九州品質工学研究会(品質工学専門部会)」は、1997年に計測専門部会内で開始された勉強会から昇格し、会員相互の連携、親睦と品質工学の発展向

上を狙いとして、九州工業大学の楢原弘之を幹事として2002年に設立された。

現在のメンバーは、大学、公設機関、企業を含めた14会員で構成されている。

2. 活動内容

主な活動は、品質工学の講義及び演習や事例発表を中心とした定例会である。

定例会は隔月(年間6回)開催しており、開催時間は平日の午後(14:00~17:00)である。

現在、北九州品質工学研究会の幹事をTOTO(株)が務めていることもあり、定例会の会場は主にTOTO研修センターを利用している。

定例会の参加人数は、計装研究会の会員である北九州地区の産学官より20~30名程度である。主な参加メンバーは(株)安川電機、黒崎播磨(株)、TOTO(株)などの技術者、九州工業大学、北九州工業高等専門学校などの教授や学生などであり、さまざまな業種からの参加があり、まさに異業種交流の場となっている。

会員企業では、北九州品質工学研究会をスキルアップの場として活用しており、企業内で品質工学を学んでいる社員を積極的に参加させている。また、社外との交流を深めることで、多くの刺激を受けている。

学生にとっては地元企業の現役技術者と直接話しができる格好の場となっている。北九州品質工学研究会に参加していた学生が、会員企業へ就職する事例も増えてきた。学生時代に品質工学を経験していることが就職において良い条件となっているのかも

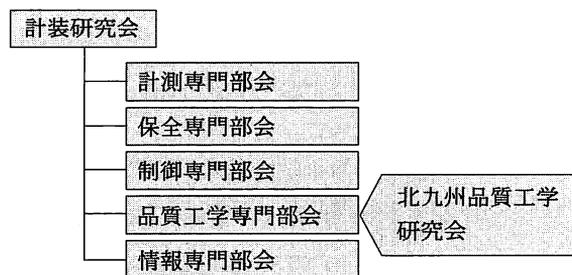


図1 北九州品質工学研究会